京都の伝統織物の情報発信プロジェクト

春・秋連結学期 | 今出川校地開講科目

1. 目的・概要

the purpose and an outline

本プロジェクトは、京都の伝統織物である錦織物について学び、そこで得た知識をもとに主体的に情報発信を行うことを目的としました。その上で、錦織物を身近に感じ、触れることができるような機会の創造を目標に掲げ、オリジナルの錦織物の企画・制作と、展示会や座談会などのPRイベントを開催するための活動を主に行いました。

春学期の4月から6月にかけては、錦織物の情報発信を行うために、まず錦に関する知識を深めようと試みました。錦織のものづくりは、高度に専門分業化された70もの工程で作り上げられる「共同制作の世界」です。そのうち主な12工程の中の企画、紋意匠図、糸染、整経、箔の5つの工程と、錦を織る機自体を作る機大工の方への取材を実施しました。7月にその取材をもとに、どのような情報発信を行うか話し合い、錦織物の制作とそのPRイベントを実施することを定め、企画書・予算案を作成しました。

8月の夏休みから、オリジナル錦織物「煉志光紋」のコースター・ネクタイ・シュシュ・タペストリーの制作を開始し、10月以降は、イベントの具体的な内容を話し合い広報活動を実施しました。そして12月に制作したコースターを実際に使用して頂くカフェイベントや、製作した錦織物の展示会や座談会などのイベントを開催するに至りました。以上が本プロジェクトの活動です。

annual schedule

2009年	4月	全体顔合わせ
	5月	紋意匠図・箔の工程取材 ▶ 光峯工房での講義
	6月	糸染め・整経の工程取材 ▶ 光峯工房での講義
	7月	機大工の方への取材 ▶ 企画の全体構想の決定 ▶ 企画案・予算案の作成
	8月	製作する錦織物のデザインの検討 ▶ 制作交渉の開始
	9月	製作交渉の継続とPRイベントの構想を練る
	10・11月	錦織物の製作開始 ▶ イベントのポスター・ビラの製作 ▶ 新聞社への広報活動 ▶ 必要物品の準備
	12月	7日から13日までカフェイベントの実施 ▶ 18・19日に展示会・座談会の実施
2010年	1月	1年間の活動を振り返っての反省と課題等の話し合い

2. 成果達成度

the achievement degree

春学期に実施した6回の取材を通して、実際に錦織物の制作を行っている職人の方々の生の声を聞き、座学で得られないような知識を得ることができました。取材をする中で「生きた伝統」を目の当たりにし、錦織がいかに多くの工程を経、多くの人の思いが込められているものであるかということを実感しました。また、伝統的でありながら、今も古びることのない錦織の魅力を再発見し、同時に不況や後継者不足など、京都の織物業界が抱える厳しい現状も知りました。当初の目標であった、錦に関する知識を深めることは、ある程度達成できたと思います。反省点としては、メンバーそれぞれの自主的な錦織物に関する勉強が不十分であったことが上げられます。

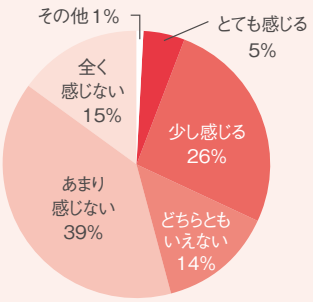
春学期の最後には、実際に情報発信をしていくための方針を定め、企画書と予算案を完成させました。そこで目標として掲げた「錦織を身近に感じ、触れることができるような機会を創造する」ことは、12月に実施したカフェイベントや、展示会、座談会の中で達成することができたと思います。

実際、カフェイベントで実施したアンケートでは81名から回答を得、下図のような結果となりました。この結果によるとコースターを実際に使用した後、錦織物を身近に感じると答えた人は、使用する前に比べて約2倍に増えていることがわかります。

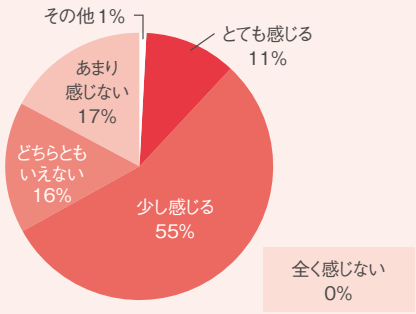
以上より、一年間の活動を通して京都の伝統織物である錦織について学び、そこで得た知識をもとに錦織の情報発信を行うという当初の目的は果たせたのではないかと考えます。

[カフェイベントのアンケート結果]

Q | 錦織物のコースターを使う以前、錦織物を身近に感じていましたか?



Q | 実際に錦織物のコースターを使うことで、錦織物をより身近なものと感じられましたか?



3. プロジェクトを通じて

through a project

西陣の地で学び、生活している私たちが、その地の重要な伝統産業である織物業のことをほとんど知らなかった。春学期に龍村　光峯先生の講義を受け、西陣で織物業を営んでおられる職人の方々に取材させていただいて、私たち受講生はその事実に気づきました。

錦織物製作の過程には、確かに「たてとよこの物語」があります。細かく分ければ70もある工程が専門分業化されていて、次から次へとバトンを渡すリレーのように繋がっていき、完成へと向かう。そして、そのそれぞれの工程には、親から子へ、子から孫へと代々家業として受け継いでいる方々がおられるのです。不況や後継者不足で伝統が途絶えるということは、そのたてとよこのつながりが途絶えてしまうということなのです。この西陣の地に住む私たちが、少しでも錦織物の魅力を伝え、伝統を守る手助けができればと思い、このプロジェクトを進めてきました。取材し、企画を立て、私たちオリジナルの錦織物である「煉志光紋」を制作し、カフェイベント、展示会・座談会を開催する過程で、温かいご支援を下さった職人の方や企業の方、興味深く展示を見てくださった学生の方、新聞を読んで錦織物に関心を持ってくださった地元の方など、私たち自身も多くの人と出会い、あらためて人と人との繋がりを感じる機会になりました。

column

[各メンバーの感想]

- 「伝統」とは、人と人の繋がりの中で生まれるもの。伝統の中で生かされている事、人と人の繋がりの中で生かされている事を感謝し、実感することの大切さを学びました。
- 座学では体験することのできない企画力・行動力・コミュニケーション力をつけることができました。チームワークや思いやりの重要さも知ることができました。
- 直接会って話すことの大切さを知り、プロジェクト以外のことでも話せるような人間関係が築けたと思います。
- 普段は話す機会がないような職人の方々や企業の方、また学部も学年も違うメンバーと協力して、一つのものを作り上げることの難しさや喜びを知ることができました。
- 多くの人に支えられていることを知り、感謝する心を持つことができました。これからは、いただいたものを社会に返していけるような大人になりたいと思います。
- チームとして多数の人間で何かを形成していくことの難しさを知りました。たくさんの悩みやせめぎ合いを体験しながら、社会の入り口を僅かに覗く、素晴らしい機会をいただいたと感じています。
- 想像もできなかった職人さんの知恵、技術、精神等を目の当たりにしたことで、ものづくりの本質を支える方々や生み出された「もの」への感謝の気持ちがいっそう強くなりました。物事の本質を見極め、感謝の気持ちを持ってこれからを生きていきたいです。